

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500354		
法人名	株式会社ケア. コスモス		
事業所名	グループホームコスモス新井荘		
所在地	群馬県太田市新井町285-4		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和5年3月30日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して暮らせる環境を作り、家庭的で職員と一緒に楽しく生活出来るように支援をしている。現在の利用者様のADLを活かして職員と一緒に出来ることを見つけながらレクリエーションやイベントを行っている。職員に関しては勉強会、ミーティングなどを活用し1人1人がスキルアップを目指して分からないことを話し合いながら支援している。  
見学者より施設の雰囲気がよく職員の対応が良かったとのことのお言葉が頂けた。  
長年勤めているスタッフを中心に明るい職場、働きやすい職場環境を作っている  
利用者様1人1人が職員とのコミュニケーションの中で意見や要望を言いやすい環境づくりをしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が外に出ることを制限せず、本人の意思を尊重した支援に取り組んでいる。一人での外出には不安があるが、行先や歩行ルートを確認し、近所の人との関りも承知しておく等、用意周到に安全確認を行った上で利用者の自由さを見守る、事業所、職員の姿勢がうかがえた。この自由さは、入浴も続けて入ったり、拒否をしたり、共用空間を自由に歩き回り、階段を上がったり下りたりと、利用者が選択する場面や行動そのものに表れており、自分の家で生活をしているような様子が見られた。また、近隣宅にお悔やみに伺ったり、季節の野菜が届いたり長く続く地元のお互い様の近所づきあいを通して、地域とのつながりを大切にしていることがわかる。地域との良好な関係は日常的にも、いざという時にも事業所にとって大きな力となる。事業所、職員の地域に根差した真摯な取り組みがうかがえた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	概ねできている	ケアをする場合は入浴、食事等のような場面でも丁寧に「今日はどうですか。」と声かけをしてから対応するよう心がけ、利用者の選択の機会を作る等、理念に沿った実践に取り組んでいる。	理念は職員にとって目標であり、ケア実践の際の柱となるものなので、職員が理念を理解する場を設ける取り組みをしてはいかかが。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あまりできていない。コロナ過もあり、中々難しい所、挨拶したりする位	近隣から認知され、下水の修理をしてもらったり、外にいる利用者に声をかけてもらっている。また、事業所も近隣住民宅にお悔やみに伺う等、普段から地域とのつきあいに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまりできていない。コロナ過もあり、中々難しい所		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あまりできていない。コロナ過で運営推進会議は市の指導で実施していない	運営推進会議は書面開催とし、利用者の近況報告、入居状況、行事について等、報告事項をまとめた議事録を作成している。特に関係者への配付はしていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設利用者様は生活保護の利用者様が多く、市の担当の職員の方と、こまめに連携している	生活保護受給者については定期的に報告をしている。また、コロナ禍につき、感染者の報告や日常的な事故報告を通して連携を図っている。認定調査の立会い、介護保険更新代行をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている。身体拘束の会議をし、身体拘束について、理解、対応を勉強している。	玄関は開錠しており、自由に出て行く利用者もいるが、自分の力で戻れない利用者もいるので施錠する場合もある。スピーチロックに対しては申送りやミーティングで注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	概ねできている。ミーティング等を活用したり、勉強会などをしながら、考え、学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまりできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。契約の際に、ご家族様に分かりやすく、丁寧に説明し、質問等投げかけながら、話を聞く体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ている。利用者様の買い物など、希望を出来るだけ聞き、出来る限り聞く姿勢を取っている。	記録にある利用者の言葉や「つまらない」といった口癖に対して家事の手伝い等を提供し、支援を工夫しながら対応している。また、家族や後見人に個別に連絡し意見や要望を聞くことに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来ている。ミーティングなどを活用し、意見を聞いている。	食事の際、食べにくい様子の利用者のバイタルや食事形態について話し合い、ケアに反映させている。食事作りやケアにあたる外国人職員も働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ている。年2回面談の場を設けて処遇等の話をするようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね出来ているが、コロナ過で、外部研修が難しい。研修等ある場合、会場の指示のもと、リモートなどで参加し、取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過で、あまりできていないが、同法人内での交流をしながら、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。必要に応じて、関係各所に利用者様と、おもむき話を聞く支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている。ご家族様と連携をとりながら、要望などを聞いている。ケアプランの更新時などを利用し、ご家族様に、意見を聞く機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている。ケアマネジャーが中心となり、ご本人から、ヒアリング調査を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	概ね出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ている。コロナ過で面会制限あり中々難しいなかであるが、感染対策の上で面会時、ご家族様に、日常生活の様子を報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	概ね出来ている。コロナ過であり、外出が難しいが状況に応じて面会の機会を設けている。	友人が突然訪れたり、昔からの友人と玄関先に座って話をする等、関係性の継続を支援している。また、近くの畑で農作業をしたり、花好きな利用者には世話をしてもらおう等、できることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	概ね出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	概ね出来ている。退去後も住所を貸し、住所変更がされず、手紙、書類等届いた場合、必要に応じて届けるサービスを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	概ね出来ている。要望に応じて買い物や市役所への付き添いを行っている	週2日勤務のケアマネジャーが直接利用者とは話をする中で、また、職員の申し送り表やメモ、職員との会話を通して、利用者の意向や思いを把握し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	概ね出来ている。入居時に職員に情報の共有をし、どのようなサービスがよいか検討している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている。自立度が高い利用者様に対してADLが低下しないようにその人が出来ることを見つけて支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね出来ている。コロナ過で集まるのが難しいが、関係各所と連絡を密に行っている	毎月1回、ケアマネジャーが介護計画の見直しとモニタリングをし、モニタリングシートに基づいて3ヶ月分を見直し、ケアプランに反映させている。担当者会議は開いていない。	ケース記録はケアプランに沿った記録となるよう心がけてみてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ている。必要に応じて、要望があれば、職員が自宅に付き添うなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。施設の敷地に畑があり、利用者様に自由に使って頂き、職員と一緒に作物を作っている。また花壇にお花を植えたりしながら、季節を感じて頂けるように支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。希望があれば嘱託医以外の医療機関の受診も行っている。	かかりつけ医を継続する場合は家族が対応しているが、現在は6名の利用者が月2回協力医の往診を受けている。歯科は必要に応じて、自宅近くのかかりつけ医を受診している利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。体調の変化があれば嘱託医の先生に連絡し、指示を仰いで対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。家族の支援が受けられない場合利用者様には家族の代わりに入院の洗濯対応をし、後日に入院先の病院に持っていく対応を実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ている。入居時に必ず御家族に確認、同意書に記入して頂いている	事業所での看取りを希望する家族もいる。今は元気だが、終末期の支援を段階的に決めていくことを家族を交えて話し合い、協力医やかかりつけ医の協力を得て看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	概ね出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね出来ている。年2回の避難訓練を行っている。	年2回の総合避難訓練、自主訓練は実施していない。2階建てであるため災害時の避難は難しく、今後の訓練の必要性を痛感している。	万が一の災害を認識し、先ず、法定の避難訓練を実施することから始め、将来的に月1回の自主訓練ができるよう、災害対策に取り組んではいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね出来ている。ミーティングなどを活用し 接遇について、話し合う場を設ける	利用者をさん付けで呼び、ミーティングは小さい 声で、場所を厨房に移して行うこともある。 異性介助の場合は了解を得てから支援にあたり、 女性利用者にはなるべく同性介助になるよう配慮 している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	概ね出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切に、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援している	概ね出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	出来ている。コロナ過で買い物できていない が、入浴時にご本人様に洋服を選んでいただ いている。また、朝の起床時には寝たきりの 利用者様に対しての髭の確認、蒸しタオル を活用し整容をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	概ね出来ている。	コロナ感染者が出た際は居室で食事をして いた。誕生日や行事の際はケーキや食事の 一品を手作り、近隣から届いた野菜を利用し ている。希望によって外食や購入した食事を 提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	概ね出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	概ね出来ている。口腔ケアの拒否ある利用 者様の対応が難しい場合、時間をおき、声 掛けしながら対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	概ね出来ている。	利用者がいつまでもトイレで排泄できるよう支援に取り組んでいる。自立者は自分のペースでトイレに行き、夜間はポータブルトイレを使用したり、ベッド上で定時のおむつ交換が必要な利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	概ね出来ている。便秘の際は便の状態、量に応じて薬の調整をしている。また、往診時嘱託医の先生と相談して指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね出来ている。利用者様の体調を見ながら声掛けし入浴して頂いている。入浴表を使用して希望と募り対応している。	入浴は曜日を決めず、週2～3回を目安に実施している。午前に声かけをしているが、連日入浴する利用者もいる。入浴前のバイタルチェックで血圧が低い場合は清拭、陰洗を代わりに実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ね出来ている。内服に対して薬剤情報を確認して説明、理解して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている。利用者様の自立度に応じて役割を決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ている。天気の良い日など職員と一緒に散歩に出かけている。	自由に入りができ、決まった行先に出かけて行く利用者や通りで近隣の人と話をしている利用者を職員は見守っている。外出やレクリエーションに制限をしていたが、お花見に行くことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている。希望があればお小遣いを渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。希望があれば関係各所に連絡し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。レクで壁絵を作ってみたり行事に応じて飾り付けをしている。	季節感のある飾り物や利用者の手作り作品、カレンダーを掲示している。感染症や生活臭への対策として換気をし、テーブルもゆとりある配置を心がけ、清潔で居心地の良い空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り行っている。	ベッドの他、床に布団を敷いて寝ることも選択できる。使い慣れた筆筒やテレビ、ラジオを持ち込み、居室で新聞や雑誌を読んで過ごす利用者も見られ、居室が寛ぎの空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り行っている。		